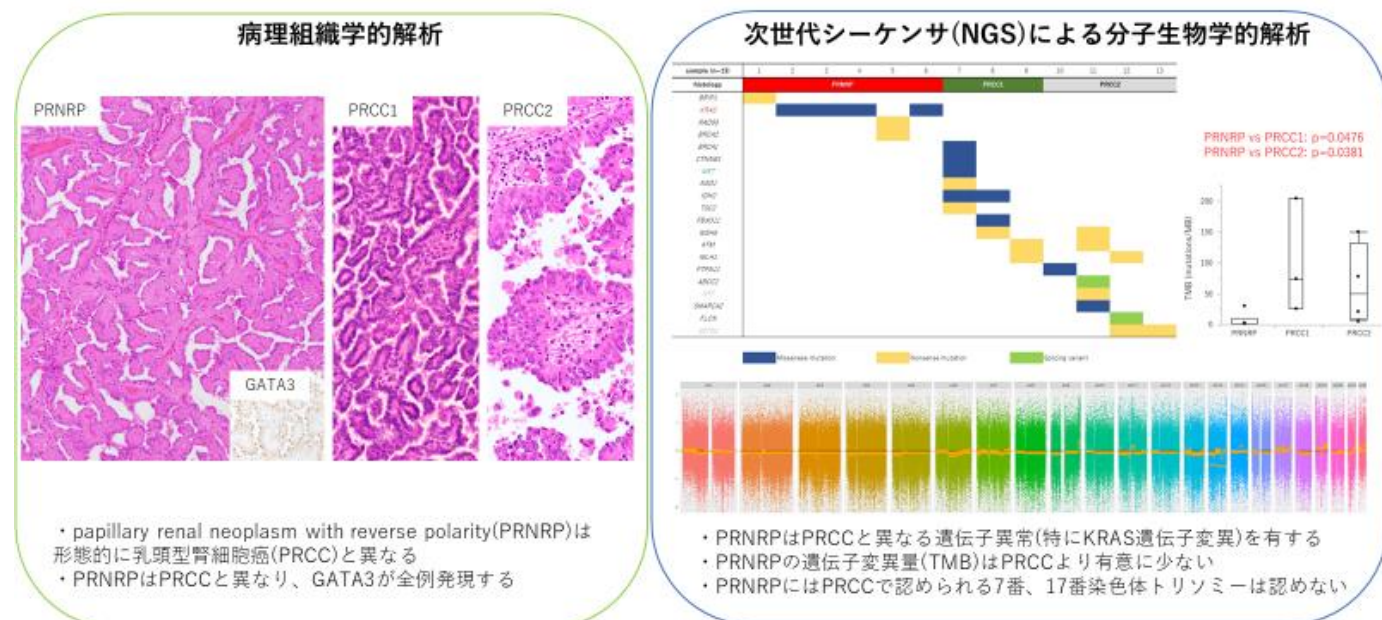




Morphological, immunohistochemical, and genomic analyses of papillary renal neoplasm with reverse polarity

逆極性乳頭型腎腫瘍の形態的、免疫組織学的、遺伝学的解析

Hum Pathol. 2021;112:48-58. doi: 10.1016/j.humpath.2021.03.009.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33811832/>

PRNRP は組織学的、並びに分子生物学的に PRCC と異なる腫瘍であり、独立した一つの疾患概念である

[背景] これまで乳頭型腎細胞癌 (papillary renal cell carcinoma, PRCC) と診断された腫瘍の中に特徴的な形態を有し極めて良好な経過をたどるものが報告されており、近年そのような腫瘍に対し新たに逆極性乳頭型腎腫瘍 (papillary renal neoplasm with reverse polarity, PRNRP) の概念が適応された。

[方法] 今回我々は 14 例の PRNRP と 10 例の PRCC type 1 (PRCC1) 及び PRCC type 2 (PRCC2) とを臨床的、形態学的、免疫組織学的及び分子生物学的側面から比較検討した。PRNRP 及び PRCC の全症例に対し免疫組織化学染色を行い、次世代シーケンサー (NGS) を用いた全エクソーム解析を 6 例の PRNRP、3 例の PRCC1 及び 4 例の PRCC2 に施行した。NGS 未施行の PRNRP 8 例に対しては、PCR を用いて KRAS 遺伝子変異の解析を行った。

[結果] PRNRP の全症例が pT1N0M0 であり、転移例や再発例、腫瘍死を来した症例は認めなかった。免疫組織学的には PRNRP は CK7、EMA、PAX8、GATA3 が全例陽性であり、CD10、CD15、AMACR の発現は陰性または弱い傾向にあった。NGS 及び PCR の解析により、PRNRP 14 例中 11 例に KRAS ミスセンス変異が認められたが、PRCC1 及び PRCC2 では同遺伝子変異は認めなかった。また、PRNRP は PRCC より遺伝子変異量が優位に少なく、PRNRP では 7/17 番染色体トリソミーを含めた特異的な染色体コピー数の増減も指摘できなかった。

[結語] PRNRP は PRCC とは異なる腫瘍であることが示唆された。

(文責 筆頭著者 清澤 大裕)